



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月31日

上場会社名 キーコーヒー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2594 URL <http://www.keycoffee.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 裕
 問合せ先責任者(役職名) 財務部長 (氏名) 水谷 彰洋 (TEL) 03-3433-3311
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	19,219	26.4	754	20.1	782	8.2	591	12.6
2023年3月期第1四半期	15,205	10.4	627	126.5	722	60.3	524	73.9

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 690百万円(22.4%) 2023年3月期第1四半期 564百万円(75.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	27.61	—
2023年3月期第1四半期	24.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	54,785	31,113	56.2
2023年3月期	51,768	30,530	58.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 30,808百万円 2023年3月期 30,250百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	75,000	18.5	700	186.0	700	100.4	500	188.9	23.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年3月期1Q	22,689,000株	2023年3月期	22,689,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	1,275,856株	2023年3月期	1,276,656株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年3月期1Q	21,413,144株	2023年3月期1Q	21,412,344株

(注) 期末自己株式数には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式(2024年3月期1Q 266,600株、2023年3月期 267,400株)が含まれております。また、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(2024年3月期1Q 266,600株、2023年3月期1Q 267,400株)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する主旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日までの3ヶ月間）におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの分類変更や雇用情勢の改善、賃上げの広がり等により緩やかな持ち直しの兆候が見られたものの、資源価格の高止まりや円安の影響を受けた物価の上昇、欧米諸国の景気減速懸念もあり依然として先行きは不透明な状況で推移しました。

コーヒー業界におきましては、業務用市場の消費量が新型コロナウイルス感染症の行動制限解除による人流の活発化や訪日客の回復等により伸長を続けるとともに、家庭用市場の消費量においても前年秋の店頭価格引上げもあるなか、前年同期並みとなりました。

業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆調達価格は、コーヒー生豆相場が最大の産地であるブラジルの収穫が順調に進んでいることを受け直近は落ち着きが見られるものの、円安傾向が継続していることから依然高値水準となっています。また、資源・エネルギー価格及び資材費の上昇などコーヒー製造コストは高止まりしており、厳しい経営環境が続きました。

このような状況の下、当社グループは「コーヒーを究めよう、お客様を見つめよう、そして心にゆたかさをもたらすコーヒー文化を築いていこう。」という企業理念を果たすため、長年にわたり培った「品質第一主義」のもと、「事業構造の改革」、「収益力の強化」及び「グループ総合力の強化」を3つの柱とし、新たな需要の創出や生活者のニーズにお応えする商品開発、お取引先の業績に寄与する企画提案型の営業活動を推進してまいりました。

当社は、従前から環境配慮や人権尊重に取り組んでおり、前年度には2030年を見据えた新メッセージ「珈琲とKISSAのサステナブルカンパニー」を制定し、喫茶文化の継承と持続可能なコーヒー生産の実現を目指すために専門部署「コーヒーの未来部」を創設しましたが、更に本年度は「サステナビリティ推進室」を新設し、サステナビリティに関する施策をより広範に推進してまいります。

当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、192億19百万円（前年同期比26.4%増）、営業利益は7億54百万円（前年同期比20.1%増）、経常利益は7億82百万円（前年同期比8.2%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、5億91百万円（前年同期比12.6%増）となりました。

<連結経営成績>

(単位:百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年増減	前年増減率
売 上 高	15,205	19,219	4,013	26.4%
営 業 利 益	627	754	126	20.1%
経 常 利 益	722	782	59	8.2%
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 四 半 期 純 利 益	524	591	66	12.6%

セグメントの営業概況は次のとおりであります。

(単位:百万円)

事業区分	売上高			営業利益		
	当第1四半期	前年増減	前年増減率	当第1四半期	前年増減	前年増減率
コーヒー関連事業	16,936	3,805	29.0	693	63	10.0
飲食関連事業	1,066	139	15.0	7	56	—
その他	1,216	68	6.0	198	57	40.9
調整額	—	—	—	△144	△50	—
合 計	19,219	4,013	26.4	754	126	20.1

(注) 調整額は主に、セグメント間取引消去、棚卸資産の調整額、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(コーヒー関連事業)

業務用市場では、デジタルツール導入による顧客管理強化やWEB活用による受注自動化の他、売掛金回収業務の効率化などに取り組みました。また、トアルコ トラジャや氷温熟成珈琲など差別性の高いコーヒーの販売を推進するとともに、酒類他業務用食材の取り扱いアイテム強化による拡販を行いました。

お取引先の活性化策としては、世界中の品質の優れたコーヒーを提供する月間企画などの提案やコーヒーインストラクターが中心となったお取引先向けコーヒーセミナーの実施、シーズン企画としてアレンジメニューやご当地カレーをラインアップした「カレーフェア」を実施しております。

また、カフェ開業支援の施策として取り組む様々な立地環境に出店可能なパッケージカフェ「KEY'S CAFÉ」を1店出店し、導入店舗数は73店舗となっています。

売上につきましては、新型コロナウイルスの分類変更やインバウンド需要の増加によりお取引先へのコーヒー及び業務用食材の販売量が増加し、前年同期に比べ大幅な増収となりました。

家庭用市場では、発売45周年を機に「トアルコ トラジャ」シリーズを全面リニューアルするとともにコーヒーファンの意見を反映した期間限定「ドリップ オン」や「インスタントコーヒー」等を販売しております。また、主力商品グランドテイストシリーズの積極的な販売活動が奏功し売上を回復させました。

ギフト商品では、中元期に向けて「ドリップ オン」シリーズをはじめ、定番の「氷温熟成珈琲アイスコーヒー」や「天然水プリズマ飲料」、大人から子どもまで楽しめる「アイスコーヒー&ジュース&ドリンク」など全27アイテムをラインアップしました。

売上につきましては、上記各種の販売促進強化により前年同期に比べ大幅な増収となりました。

原料用市場では、コーヒー相場連動のお取引であり販売単価上昇による増収となりました。

コーヒー関連事業における営業利益は、コーヒー生豆調達価格等の製造コスト増及び人件費の増加等もあるなか、業務用市場、家庭用市場における大幅な売上増により前年同期比増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるコーヒー関連事業の売上高は169億36百万円（前年同期比29.0%増）、営業利益は6億93百万円（前年同期比10.0%増）となりました。

(飲食関連事業)

株式会社イタリアントマトは、売上面では新型コロナウイルス分類変更もあり人流が回復するなか、季節限定メニューの毎月投入、催事の開催等による来店客数の回復、デリバリーへの取り組み強化等により前年同期を大きく上回りました。利益面では売上状況の変化に応じた人員配置や食材の発注、管理を行うとともに、廃棄ロスの低減に取り組み、人件費、原材料費の適正化を推進しました。また、原材料調達価格や光熱費などのコスト上昇を受けた商品開発及び商品の価格改定を実施、付加価値の高いメニューの投入にも継続して取り組んだ結果、利益水準は大きく改善し営業黒字に転換しました。同社店舗数は148店（直営店50店、F C店98店）となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における飲食関連事業の売上高は10億66百万円（前年同期比15.0%増）、営業利益は7百万円（前年同期は49百万円の営業損失）となりました。

(その他)

ニック食品株式会社は、売上面では行動制限や経済活動の見直しに伴う需要回復により飲料製品を中心に伸長し前年同期に比べ増収となりました。利益面では売上の伸長に加え、製造原価の抑制及び販管費の適正化に注力した結果、増益となりました。

通販事業を営むhonu加藤珈琲店株式会社では、売上原価が前年同期比大幅に上昇するなか、販売価格の引上げや販売促進費の抑制により売上高及び利益の確保に努めましたが、減収、大幅な減益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他事業の売上高は12億16百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益は1億98百万円（前年同期比40.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は前連結会計年度末に比べて30億16百万円増加し、547億85百万円となりました。

流動資産は23億52百万円増加し、368億56百万円となりました。これは現金及び預金の増加(14億1百万円増)、受取手形及び売掛金の増加(24億2百万円増)、原材料及び貯蔵品の減少(10億82百万円減)などによるものであります。

固定資産は6億64百万円増加し、179億28百万円となりました。有形固定資産は20百万円増加し、無形固定資産は23百万円増加し、投資その他の資産は投資有価証券の増加(7億4百万円増)などにより6億20百万円増加しました。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べて24億33百万円増加し、236億71百万円となりました。

流動負債は24億33百万円増加し、218億18百万円となりました。これは支払手形及び買掛金の減少(5億75百万円減)、短期借入金の増加(31億78百万円増)などによるものであります。

固定負債は0百万円減少し、18億53百万円となりました。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて5億83百万円増加し、311億13百万円となりました。これは利益剰余金の増加(4億82百万円増)などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、現時点において2023年5月15日に公表致しました業績予想の変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,120	5,522
受取手形及び売掛金	14,103	16,505
商品及び製品	3,437	3,671
仕掛品	261	334
原材料及び貯蔵品	11,274	10,192
その他	1,401	730
貸倒引当金	△95	△99
流動資産合計	34,503	36,856
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,024	4,024
機械装置及び運搬具（純額）	1,346	1,334
土地	6,570	6,570
その他（純額）	568	600
有形固定資産合計	12,509	12,530
無形固定資産		
のれん	137	133
その他	713	741
無形固定資産合計	851	874
投資その他の資産		
投資有価証券	2,761	3,466
長期貸付金	32	30
繰延税金資産	108	83
差入保証金	761	738
その他	390	357
貸倒引当金	△151	△151
投資その他の資産合計	3,903	4,524
固定資産合計	17,264	17,928
資産合計	51,768	54,785

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,719	12,143
短期借入金	3,187	6,365
未払金	2,093	1,622
未払法人税等	113	187
賞与引当金	292	243
その他	978	1,256
流動負債合計	19,385	21,818
固定負債		
繰延税金負債	156	169
再評価に係る繰延税金負債	478	478
株式給付引当金	66	70
その他の引当金	4	4
退職給付に係る負債	368	348
資産除去債務	446	445
その他	332	335
固定負債合計	1,853	1,853
負債合計	21,238	23,671
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,628	4,628
資本剰余金	5,094	5,094
利益剰余金	25,274	25,756
自己株式	△2,541	△2,539
株主資本合計	32,456	32,941
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	424	493
土地再評価差額金	△2,736	△2,736
為替換算調整勘定	0	8
退職給付に係る調整累計額	105	101
その他の包括利益累計額合計	△2,206	△2,133
非支配株主持分	279	305
純資産合計	30,530	31,113
負債純資産合計	51,768	54,785

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	15,205	19,219
売上原価	11,154	14,890
売上総利益	4,050	4,329
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び見本費	224	243
荷造運搬費	607	584
車両費	103	99
貸倒引当金繰入額	—	4
役員報酬	65	66
給料及び賞与	1,102	1,142
賞与引当金繰入額	104	154
退職給付費用	28	15
福利厚生費	183	198
賃借料	220	191
減価償却費	69	66
消耗品費	44	54
研究開発費	45	54
その他	623	699
販売費及び一般管理費合計	3,423	3,575
営業利益	627	754
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	9	11
持分法による投資利益	27	—
為替差益	3	1
不動産賃貸料	15	19
その他	45	9
営業外収益合計	101	42
営業外費用		
支払利息	1	8
持分法による投資損失	—	0
不動産賃貸費用	3	3
その他	1	1
営業外費用合計	6	14
経常利益	722	782
税金等調整前四半期純利益	722	782
法人税、住民税及び事業税	94	154
法人税等調整額	85	11
法人税等合計	180	165
四半期純利益	542	616
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	25
親会社株主に帰属する四半期純利益	524	591

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	542	616
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	68
為替換算調整勘定	10	8
退職給付に係る調整額	2	△4
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	0
その他の包括利益合計	21	73
四半期包括利益	564	690
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	545	664
非支配株主に係る四半期包括利益	18	26

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	13,130	927	14,058	1,147	15,205	—	15,205
セグメント間の内部売上高 又は振替高	160	1	162	392	555	△555	—
計	13,290	929	14,220	1,540	15,760	△555	15,205
セグメント利益 又はセグメント損失(△)	630	△49	581	140	721	△94	627

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が営んでいる飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△94百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、棚卸資産の調整額43百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1億37百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	16,936	1,066	18,003	1,216	19,219	—	19,219
セグメント間の内部売上高 又は振替高	173	3	176	374	550	△550	—
計	17,109	1,070	18,179	1,590	19,770	△550	19,219
セグメント利益	693	7	700	198	898	△144	754

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が営んでいる飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△1億44百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、棚卸資産の調整額2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1億46百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。